

【5】 小学部の子もたちがどう変容しつつあるか

ここでは、小学部の児童にどのようなコミュニケーションの力がついてきたかその変容の様子を述べることにしたい。

・友だちや先生とのかかわりが多くなってきたU男

今年入学してきたV男は、先生や友だちと慣れず、ひとり遊びが多く、少しでもいやなことがあるとトイレにいらってしまうなどコミュニケーションをとることが難しかった。

学校生活に慣れるにつれ、遊びの時間の楽しい雰囲気や、日常生活の上での必要に迫られた活動の中で、コミュニケーションする場面を増やしていった。今は話しことばで訴えることはうまくできないがクレーム現象で訴える場面が増え、アイコンタクトが取れるようになり、口型模倣もするようになった。さらに、同じクラスのY男とも手をつないで移動できるようになり、トイレに行く回数も減るなど行動にも落ち着きが見られるようになっている。



・自己内対話をしながら相手のことを思いやって行動できたO男

4年生のO男は、勝ち気で何をしても1番でないと気が済まない子であった。他の子に負けると泣いて悔しがるが多かった。今年になってライバル視していたT男と別のクラスになったこともあって生活態度にも余裕が出て来た。そこで、ゲームに負けたときにも悔しいけど我慢することなどを指導した結果、自分で言葉に出して「今度ががんばればいい。」と言えるようになり、「ぼくより小さい子だから譲ってあげる。」という気持ちがでてきた。



・ひとりごとが多かったのが、場面にあった会話ができるようになったW男

4年生のW男は、あまり人と関わろうとせず、話しかけても自分の興味のあることだけ受け答えすることが多かった。今年は、クラスの楽しい雰囲気につられて、子ども同士の会話にもかかわることが多くなり、話がかみ合うようになってきた。

・こども同士のコミュニケーションが増え、自制心が芽生えてきたE子

今年2年生になったE子は1年生の時には、まわりの大人からかわいがられることが多く、コミュニケーションの相手は主にまわりの大人であった。今年に入って、1年生に同性の子どもが入学してきたことによって子ども同士のコミュニケーションが大幅に増え、おねえさんぶりを発揮するようになった。それに伴って自己自制をする言葉が増え、我慢強くなったきた。